# 無政府主義運動

日本アナキスト
クラブ
川崎市塚越3の472
編集発行人　綿引邦農夫
価1部20円・〒10円


## ベトナム反戦運動の直接行動化

全国の労働組合が十月二十一日に反戦ストライキ宣言をした。それと前後してベトナム反戦直接行動委員会が組織されて活動を開始すると、たちまちジャーナリズムはそれが暴力行為であるかの如く報道しはじめた、これは直接行動という言葉の意味を故意に歪曲しているからだ。直接行動とは間接行動の対語である。

### 直接行動とは

直接行動という言葉は、しばしばその全部が暴力行為であるかのように誤りつたえられている。問答無用と暴力を振う場合も、たしかに直接行動という言葉で表現される。しかしわれわれが社会運動労働組合運動のうえで古くから使われている直接行動という言葉の意味は内容はまったくちがうのである。大衆の要求を議会を通して政策として社会に反映させる議会主義を間接行動とわれわれはよんでいる。これに反して議会に対して陳情や請願をせずに労働者がストライキやサボタージによつて直接資本家階級に打撃をあたえて自己の要求を貫徹しようとする行為を直接行動と呼んでいる。では現在の情勢のもとでわれわれが議会に請願する間接行動にたよるか、それとも最も有効なストライキという生産部門における直接行動をとるか、これは論ずるまでもあるまい。

議会にたよることはもはや絶望である。資本主義の存続するかぎり革新政党が絶対多数党となり権力を手中におさめることはできないからである。

もしかりにそうなつたとしてもその政党はもはや現在の自民党と同様な政府となり下がるであろう。その政党がもしも政権を握つたとしても労働者の味方として現在彼等が誇張している政策を実行しようとすれば必ず資本家階級の誤によつて彼らの党は壊滅させられてしまう。

それば労働大衆に残された唯一の要求手段は生産部門における直接行動あるのみ。

### ベトナム戦争と世界大戦の危機

ベトナム戦争は宣戦なきまま日を追つて激化している。

北ベトナムは全土を米軍に占領されても抵抗を続けると主張し、米国は北側と南のベトコンが米国の停戦条件を承認しないかぎり一切協議はしないと主張している。国連も戦争終結の方途に迷つている。

さらに規野をひろげれば東ドイツと西ドイツ、南・北朝鮮、国際政治における中共の孤立、新興アフリカ諸国の紛争、中・近東の不安な情勢、ベトナム戦争を発火点にしていつ世界大戦に発展するかもしれない危険な要素がいたるところに渦まいている。

こうした危機感のなかでわれわれは一体どうしたらよいのか。

### 廃墟はまつぴらである

このままの状態で時間をいたずらに経過させれば大戦への危険は避けられない。

大戦ともなれば日本もまた、いやおうなしにその渦中に引きずり込まれる。

二十年前のあの悲惨な状態を、敗戦による苦悩を、廃墟のなかの絶望と飢餓を、思い出して見たまえ。われわれはもう、まつぴら御免である。

世界各国の労働者大衆が戦争反対のプラカードを掲げて街頭を行進している。しかしだ、これによつて一国の戦争に対する政治方針がどれだけ変更されるだろうか。

毎日を兵器生産（軍需の一切を含む）工場で殺人の道具を作つていて、一日だけ街頭に出て反戦のプラカードを振りまわしても、それがどうなるであろう。これほど空しき矛盾はあるまい。アメリカでは少数の若者が徴兵令書を焼きすてて投獄された。

またベトナム参戦を拒否して脱走した数人の兵士が軍法会議の結果監獄にほうりこまれた。少数だから投獄されるのである。数千、あるいは数万の人達が真に団結して一致の行動をとつたら、もはや裁判も投獄も不可能になる。

民衆の真の団結とは、委員会できまつたから、それにしたがつて行動するというようなものではない。各個人がどうしても、こうしなければならないという共通の意識によつて結ばれることである。民衆の真の力は真の団結による一致の行動にある。

### 全労働者に訴う

反戦運動のもつとも効果的なものは直接兵器工場に働く人達や軍需品の輸送に従事する人たちがその作業を放棄することである。

しかしこれは直ちにその作業に従事する人達の生活に甚大な影響をもたらす、したがつてこの人達の作業放棄を実現させるためには全労働者、各団体が全力を挙げて支援するのでなければ実行できないことである。

全労働者諸君、反戦運動は他人のためではない。自分自身の問題である。兵器関係労働者の作業放棄という直接行動を盛り上げるために全面的に支援しよう。

### ベトナム戦に直接参加を拒否

日本は今アメリカと共に直接ベトナム戦争に参加している。もちろん韓国やヒリピンのように前線に兵隊は送つていないが、米国の兵站部の役割を引受けて重要な戦争業務を担当している。

自民党政府は単なる商取引きとしてゴマカしているが、ベトナム反戦直接行動委員会の手によつてその事実がバクロされている。

次ぎの資料は直接行動委員会によつて調査されたものである。

**代表的な武器製造所**　豊和工業　小松製作所、ダイキン工業、旭精機、新中央工業、京三製作所、日本建鉄、日特金属工業および[illegible]らの部品下請け小[illegible]

また昨年二月米軍の[illegible]来にわかに活躍をは[illegible]送関係は次ぎの通りで[illegible]

三菱商事、三井物産、[illegible]東商、兼松、安宅産業、[illegible]日綿、江商、関西、五綿、[illegible]などの商事部門は、横浜市本町四丁目にある三菱商事ビル内の在日米軍海外調達機関「APA」特需課を通じて年率換算、直接特需は一億ドル、広義特需四億二千万ドルにのぼる間接特需八億四千万ドルにのぼるベトナム戦争向けの莫大な物資が輸送されている。しかもその[illegible]路は横浜港内のノースピヤ[illegible]専用倉庫で受け渡しされ[illegible]は秘密に運び出されるという。もちろんこの種の輸出には、輸出貿易管理令や税関認証などの日本政府の法律は一切無用とのことである。

[illegible]に輸出品目についてみれば[illegible]需工場の製作になる機関銃[illegible]拳銃、投下器、火薬、その[illegible]兵器および部品をはじめ、皮[illegible]ゴム類、木製品、紙、繊維品[illegible]鋼、機械、輸送用機器、化学製[illegible]など広範かつ莫大な戦争必需物資が国民大多数の人びとの知らぬまにベトナムの米軍に対して輸出されている。

また台湾、韓国など労働賃金の低い国に対しては、セメント、鉄材合板、紡織品、サンドバツク、その他の原材料を送り出して加工製作せしめて戦略物資としてベトナムの戦闘に消費されている。以上に見られるように、いかに日本政府が知らぬ存ぜぬと白をきつても最早われわれ国民はダマされはしない。

非人間的な武器製造の資本家ども、もうけるためには手段をえらばない死の商人たち、これと一体になつている政府、さらに世界大戦への危機感、これにわれわれはどう対処すべきか。

死の商人と一体の政府、その御用機関である議会に対して請願デモをやるか、バカな何が得られるというのだ。

他に方途はない。唯一つもつとも効果的で彼等に強烈な打撃をあたえる方法、それは経済的分野における直接行動である。

## 声明

太平洋戦争終結後、二十一年目の時点で「アジア大戦」の可能性が急速に増大している。

日中戦争から太平洋戦争へと、みるべき抵抗の闘いも組みえずするずると引きずり込まれていつた屈辱の歴史は、もう沢山だ。敵のプラグロムに追随する反対闘争は、アリバイ工作でしかない状況を先取りし、状況を創りだすことなしに、敵にプログラムの変更を要求することはできない。

ベトナム反戦直接行動委員会（略称ベ反委）は、この決意をもつて創られる。

日本国家＝日本資本主義は、アメリカ国家＝アメリカ資本主義によるベトナム人民の抑圧と搾取の戦争を全面的に支持し、支援している。彼らはベトナム戦争を足場に、「アジア大戦」の危険を賭して、二十一年前の「大東亜共栄圏」復活のプログラムを立てているのだ。

ベトナム反戦直接行動委員会は、決して戦火に苦悩するベトナム人民に同情してベトナム反戦を主張するのではない。ベトナム人民はわれわれ日本人民以上に立派に、徹底的に抑圧者に立ち向つている。われわれは彼らの勝利のために、ベトナムにおける人民抑圧の戦争に反対する。彼らの勝利ーーそれは人間の勝利であり、インターナショナリズムの必然性において、日本国家＝日本資本主義の敗北である。

いま、日本国家＝日本資本主義は、軍事基地の提供と軍需物資の生産を二本の太いパイプにして、ベトナム戦争に結びついている。従つて攻撃の主要目標は明らかだ。この二本の太いパイツを切断することである。ベトナム長戦直接行動委員会は、人民の直接行動をもつてこのパイプを切断する工作に従事する。政治家の饒舌は不要である。沈黙の直接行動は敵に最大の打撃を与え、味方に最大の決意を促す人民固有の武器なのだ。言論によるコミュニケーションが敵の手中に陥いつている現在、われわれは行動によるコミニケーションを創造しなくてはならない。

総評を中心に一〇・二一反戦ストライキが計画されている。だが、反戦ストライキは労働者階級の反戦の意示表示だけに終わらせてはならない。それは戦争にながるパイプの存在をクローズアップし、戦争の歯車をたとえ刻でも実際に停止させるものとして、闘われなくてはならないだ。

ベトナム反戦直接行動委員会は、この危局に際しても、なお選挙運動に集中しているすべての党政派と絶縁する。議会政党の虚妄が、いまほど明らかにされ時はない。信頼し、期待しうるのは、人民の直接行動の総結集のみである。われわれは、戦争につながるパイプに対し、全面的に鋭く、かつ執拗な攻撃をかけ、この行動をもつてすべてこの人にその総結集を呼びかける。

一九六六年十月十日
ベト・ナム反戦直接行動委員会

## ベ反戦直接行動委の要請にこたえよう

ベトナム反戦直接行動委員会の活動は長期かつ多方面に亘るため多額の資金が必要です。

既に犠牲者も出て居りますのでこの方の救援資金も合せてお願いします。なんとしてもこの運動の拡大強化が日本における反戦運動の決定的な効果をあげるものと考えられる。またこれがベトナム戦争終結への唯一の道であるとするならばなに人も努力を惜しまないことと信ずる。是非寄金をお願いします。

## 軍需工場のみなさんへ

あなたの工場では、アメリカのベトナム侵略に便乗して、恥ぢらずにも、米軍へ武器を売りこんでいることが明らかになつています。

いうまでもなく、戦場でまつさきに死ぬのは、われわれ労働者、そして農民です。一人の人民が、血まみれになり、泥にしずむたびに、焼けぶとり、自からの腹を肥やしてはばからない〝死の商人〟がほかならぬわれわれの眼前でしたり顔よろしく、ベトナム戦争の激化をひそかにほくそえんでながめているのを、われわれは見過ごすわけにはいきません。

いや、彼らは単に〝ながめて〟いるばかりではありません。

早い話が、アメリカにおいて、ベトナム戦争を拡大すべく政府に圧力をかけているのは、ほかならぬ軍需産業の資本家たちであり、そして日本でも、ベトナム特需はブルジョアジーの〝景気回復〟のかけ声を可能にした唯一の根拠であるといつてさしつかえないのです。

戦争こそは、ブルジョアジーにとつては自からの延命をはかるためのカンフル剤であり、さらに積極的な意味では帝国主義的な発展のための手段である。どのような大義名分を振りかざそうとも、彼らにとつては、それ以外の何の意味ももたないのです。

平和のため、国のため、共産主義の脅威、彼らがこれらの、くさくさを声高らにさけべばさけぶほど、われわれに血にまみれて死んでゆく兵士の心情の切先があるかぎり、それらが、いかに偽瞞にみちたものであるかは一目瞭然ではありませんか。

現実が、このように戦争へと、編みあげられた体系、そのものであるならば、彼らブルジョアジーに、平和をお願いする、いわゆる〝平和運動〟の不毛もまた、自明のはずです。われわれは自からの実力をもつて、武器のベトナムへの生産と輸出を完全に不可能にすべく生産工場と戦うべく、私たちとともに追求しようではありませんか。

そして、それこそが、ともに帝国主義的資本主義の抑圧のもとに苦吟するかぎり、ベトナム人民とわれわれの共通のバリケードをつくり出すものであるはずです。

一九六六年十月十二日
ベトナム反戦直接行動委員会

## 「青年に訴う」について

クロポトキンの「青年に訴う」は、われらが先輩の大杉栄が今から五十数年前に平民新聞に訳載したもので、この文献はあまりにも古いものだ。しかしながら、いかに科学が進歩しても資本主義や独裁社会主義の制度組織が変らないかぎり、この古い文献は現実に生きている。

この書は訳者大杉栄のいうとおり、クロのもつともお得意のもので、当時すでに二十あまりの諸外国語に飜訳されてクロの著作のうちでもつとも広く読まれている。この書はわが国の労働運動、社会主義運動の初期に、闘士の入門書として青年たちの情熱を沸かした名著だ。

クロポトキンが、これから話そうする相手は、快楽の情欲しかもたない退廃しかかつた末世社会の悲しむべき青年たちではない。長いあいだの学業を終えて、これから実社会に出て「おれは何になるんだろう」と自からの将来について疑いをもつている、ごくまじめな青年たちにだ とことわつている。そして、諸君はこれからどんな職業に就こうと、その職業を神聖化して社会正義のために役立てようとしても、今日の社会制度下では全く逆な結果を生んでいる。

その証拠に科学を研究して原子力を発見しても、人類の幸福に利用できずに原爆として殺人兵器となつてしまつた。広島と長崎で一瞬のうちに数十万の無垢の同胞が惨死しているではないか。この不正、不合理、矛盾瞞着な強権国家組織を変革するために青年諸君の奮起を呼びかけたものだ。

原著者クロポトキンはロシアの貴族として生れ、一生を革命運動に献身した無政府主義者である。また生物学者として、地理学者としても世界的に有名だが、彼はマルクス主義の誤謬を理論的に解明して新らしい無政府共産主義の理論体系を確立した偉大な思想家である。

この「青年に訴う」は一八七八年に欧州革命運動の最中にスイスで執筆したもので、その名文は不朽のものだ。われわれは終戦後、この名著を再版して思想宣伝に役立てたいものとの希望であつたが何しろ大杉訳は五十年前のもので現代青年には、読みづらい点が多いので全文を「当用漢字」と「新かなづかい」に書き直した。このたび、ようやく出版の運びとなつたので、この機会に希望と情熱をもつ将来有為な青年諸君にぜひ、一読をお勧めする。

編集者　嶋津


水沼、嶋津編
メーデーとアナキズム
定価　五〇円

岩佐作太郎著
論集「革命断想」
二二〇頁　価二〇〇円

P・クロポトキン著
岩佐作太郎訳
パンの獲得
三二〇頁　価三五〇円
川崎市塚越三の四七二綿引方
日本アナキストクラブ


## 吉田一君

旧同志吉田一君は、わが国初期の労働運動に献身したアナキストで高尾平兵衛君や平岩巌君ととくに親しく、最近までアナキストクラブ主催の会合に元気な顔を見せていたが、九月十七日、世田谷区深沢町二ノ四八の自宅で心筋コーソク症で急死した。行年七十四なお同志間では近く同君の追悼会を開く準備を進めている。

吉田一君は一九二一年（大正十年十一月）労農ロシア主催の極東民族会議のとき大杉栄の紹介でアナ系から吉田一、高尾平兵衛、北村英以智、小林進次郎、和田軌一郎、水沼辰雄、秀島広次の七君が選ばれて日本脱出に成功した。当時共産党系からは徳田球一と高瀬清の二君だけで、日本労働代表団としての主導権はアナ系が握った。しかし、この会議は準備の都合で無期延期となり同志はモスクワの共産党大学で二年間の教育を受けた。その間、吉田君らは大庭柯公釈放運動で片山潜（極東委員長）と交渉したり、スターリン首相と会見して日本におけるアナルコ・サジカリズム運動で万丈の気エンをあげるなどの一幕もあつた。帰国後は同志長山直行、平岩巌らと戦線同盟を組織してアナ・ボルの共同戦線を主張して華々しい活躍をした。当時、右翼の赤化防止団長米村嘉一郎を襲つて、高尾が射殺された事件もあつたが、わが初期の革命的労働運動に残した功績は大きい。

# 労働組合運動に何が期待できるか（二）

労働組合運動の歴史及びその本質論については故人になられた水沼辰夫氏が「サンジカルズムとナナキズム」と題して本紙に書かれたことがある。全文いささかの変更も必要としない。「労働組合は資本主義と共に発生し、資本主義とともに消滅すべきものである」という水沼さんの結論に対しても少しも疑問の余地がない。

しかしこの反革命的また保守的な労組のなかから数多くの真剣なアナキストが出ている。水沼はその一人であり、また熱心な労組運動者でもあった。

このことは非常に注目に値いすることではあるまいか。労働組合の本質とは別にその運動の途上において、さまざまな矛盾にぶつかりそこから革命への思索がはじまるのではあるまいか。

労働組合を革命運動の団体に改編するというのではなくして、革命思想をもつた者が労働者の集団のなかに居るということに大きな意味があると思われる。

水沼が労働運動のまつただ中に居ながら「労組は保守的であり、反革命的な存在である」ときめつけるところに千斤の重みがある。

岩佐老もまた戦前に労働運動批判のなかで労働組合山賊論をブツて労働運動者からはげしい非難をうけた、しかしこれも現実の経済事情に対する客観論としてその解釈には少しの誤りもない。

ただ労働者の単純な感情からすれば「とんでもない、労働者はまじめな生産者で、資本家どもの略奪にあつて苦しんでいる被害者である。山賊の予分なことはもつてのほかである、実にけしからん」というのが当時の労働者の感情であつた。さらに八太舟三や水沼辰夫の階級闘争の誤謬を指摘する議論が提起されて労働運動に対する論争は果てるところがなかつた。

ではどうして労働運動に対してこのように議論が沸とうしたのであろうか、それには幾つかの理由があげられるが、サンジカリズムが最大の論題である。

水沼も述べているように総連合決裂当時の思想分布は必ずしも明確ではなかつた。アナ系の組合員が全部アナキズムを身につけていたわけではない。またボル系といつても決して共産主義者全部ではなかつた。

中央集権派の総本山労働総同盟も分裂して杉浦啓一、山本健蔵らの一派は日本労働組合評議会を組織して明確なボルシエビキを表明した。一方総同盟はボルとは完全に袂別して労資協調主義に固まつた。

さてアナ系の方は決裂当時アナ系に属していた機機連合などが後に別個の行動をとつていた。

米田庄太郎の「革命的サンジカリズムの研究」が大きな刺げきとなつて、それまで漠然としていたアナ系の組合にハツキリとした方向を与えた。大正十三年秋から関東労働組合連合会の事務所で定期的にサンジカリズム研究会が催された。

ついには「われわれは議会主義を排し経済的分野における階級闘争を以つて全運動の基調とする」と宣言するに至つた。

要するにサンジカリズムが完全に革命の方法論として登場したために議論が集中したわけである。

多くの人のなかには、この論争が戦前すでに解決ずみのように思い込んでいる人もあるようだが、実は一致点にいたらないまま戦争の空白時代に突入してしまつた。

したがつて戦後組織された日本アナキスト連盟のなかに再び論争がむしかえされ、それが連盟崩壊の一因となつたとも思われる。

また白井新平のアナルコ・サンジカリズムは少しちがうように感じられる、ことに戦後の彼の発言によると、もはやサンジカではなくなつている。研究によつて定義づけられたサンジカとは労働者の組合、小作人の組合である。

彼のように無限に拡大解釈したのではサンジカの意味がうすれて協同組合の形態になつてしまう。結局彼の指向するものはアナキズムの組織論に集約されるものであろう。

ゼロはいくつならべても無意味であるということは数学的にはわかる。だが社会運動、革命運動の立場からすればゼロに等しい存在ではあるが、果してこの尨大な労働組合からは何も期待できないであろうか。

労働者の集団である以上、そこに革命のエネルギーを期待できない、ということはあるまい。

たゞ現在の労組をそのまま革命勢力に改編することは困難なことでもあり同時に危険なことでもある、従つてこの問題を詳しく検討して、そこからぜひとも希望的条件を引き出さなければならない。

次号からはこれに重点を置きたい。

# ヨーロッパ韋駄天記（二）

女屋勘左衛門

さて時差というものは不思議なもので知識としてはわかつていても実感としてはどうも納得できない。

夜の九時半に東京をたつてアラスカで夜が明けて北極海上で日が暮れた、ハンブルグで再び夜が明けた実感では二昼夜に亘るわけだが実際に費した時間はロンドンまで十九時間、まことに奇妙な感じである。ともあれ私達は現地の八時半にロンドン空港に着いた。

ここでの通関手続きは簡単なもので私達は特別バスで空港からホテルに向つた、なんだか久しぶりに地上を走るような気がした、私はバスの窓から外をながめてまた妙な割り切れない気持にさせられた。というのは三月の十九日というのに桃や八重桜の花が咲いて芝生は青々としている、それでいて寒さは東京の二月ごろの気温である。気温が低いのに草木は新芽を吹き、春の花が咲く、地理的条件のちがいといつても日本に育つた私にはどうしても理解しがたく旅行中この疑問は私の頭を離れなかつた。この現象はフランスでも同じであつた。さらに不思議なのはイタリヤの自然状態である。

私達がイタリヤのミラノに着いたのは四月六日である。ロンドンに着いた日から計算すると十八日も経過している。それにもかかわらずやはり桃や桜の花が咲いている。元来イタリヤはヨーロツパ大陸のなかでも温暖な地方とされている。そのイタリヤが寒いロンドンより半月もおくれて草木がもえ出るとは何んとも理解しがたい自然現象ではある。

私達の宿はピカデリーサーカス通りにあるエロスホテルというのであつた。私はホテルの位置を確認するために二、三の人を誘つてホテルの付近を歩き回つた、道にまよつて英語で道をたずねるのは大変な仕事であるから、その要心のためである。

まづ第一に見つけた目じるしは赤い大きな看板である、デリーエキスプレスと書いた新聞社のもの[illegible]である。つぎにみつけた中の高いビルである、お十階はあると思われた、築物は大体六、七階いるから相当遠くからなると思われた。第三行であつた、ウエブ[illegible]バンクであるホテルの四、五[illegible]きの四ツ角にあつて私達はそこで両替をしたのである。最初に目標を見つけておいた私はホテルへ帰るのにマゴつくようなことはなかつたが、多くの人達はホテルの付近を二三回もまわつて、やつとにどりついたとのことである。

私達の多くは語学が達者でなく土地の習慣などにも暗く、したがつて、さまざまな失敗談や珍奇な事件がある。それらはおいおい披露することにしよう。

さてロンドンでの日程は博物館や美術館の見学が主であるが、その規模の広大なのには驚いた。詳しくながめていたら二週間はかかると思われた、それをかけ足で二日間で見おわつた。

外国での食事もロンドンが最初である。特別に注文しなければホテルでは朝食しか出さない、したがつて昼と夜は街のレストランで食事をすることになる。これがまひとしごとである。ことに私はこころが弱いので、できるだけ約しなければならない。知らない地で安い食堂をみつけるのもそである。街のなかをウロウしてあるくが、どれもみんな高級レストランのように見える。

そのうちにフイッシ・レストランという看板の出ている店をみつけた。のぞいてみるとどうやら私たちに格好の所らしい、中にはいつてみると看板のとおり魚を専門の安料理屋のようだ、しかし残念なことに私はフライ以外の料理を知らない、中年の女中がメニューを持つてきて一々説明して呉れるのだが、いまだかつて食べたことがないのだからうまいか、まずいかわからない。面倒くさくなつたフライを呉れといつてやつた、まもなくはこばれたフライをみてビツクリした。ワラジよりも大きいと思われるような巨大なものでそのわきに無細工に切つたジヤガイモのから揚げがゴテンと盛り合せてある。どうやらタラを半身におろして揚げたものらしい。まことに恐れ入る次第である。全部たいらげたのは私だけで他の三人はほとんど食べのこしている。

午後大英博物館に向つた。できるだけ克明にみようと努力した。しかし一時間もたたないうちに頭がボヤケてきた。休みながらなおもみてまわつた。ここにはグーテンベルグ以前に作られた世界最古の朝鮮活字があるときいているのでぜひそれをみたいと思つた。しかし東京博物館の五・六倍もある広大な規模である。みて歩いているうちにとうとう居眠りがでてしまつた。もうしかたがない帰ることにした。ついに朝鮮活字はみずにしまつた。

行くときに充分注意していたから帰りは一人ボツチでも道に迷うこともなくホテルに辿りつくことができた。私にあてがわれたベツドは豪勢なダベルベツドである。飛行機でろくに眠つていないので早く眠りたくなつた。そとはまだ明るい、ベツドに寝ころんで「このベツトの上で、どれだけの男女が相ようして灼熱的なあの瞬間を味わつたことであろう」などと妄想しながらいつとはなく眠りにおちた。ガヤガヤ話し合う声に目がさめた。同室の益子氏の外に二人ばかり来て夜の食事に行く相談をしている。時計をみるともう八時をすぎている。私も同行することにした。おもてに出て、さてどこにいこうかと思つていると向うから石井鶴三老がやつて来て向う側の路じを入ると右側に中華料理店があると教えて呉れた。一同そこにのり込んだ。しかし出されたメニューがまたサツパリわからない中国語を英文で書いてあるからである。

とつさに私は昼まのことを思いした。華僑事務所の看板をみたり通りで中国人らしい人から「アーユーチヤイニーズ」と聞かれたのでこのへんには相当中国人がいるものと思つた。そこで私は手帳に漢字表と書いてみせたら早速ボーイがよごれた漢字の値段表を持つてきた、おかげで炒飯を味わうことができた、やれやれである。

次ぎの日は忙しかつた。午前中は観光バスで市内見物で午後は幾つかの美術館をみるつもりである。バスのガイドは要領よくロンドンの名所を案内して呉れる。その日は日曜なのでバツキンガム宮殿で衛兵の交代があるからと案内してくれた。宮殿前の広場にはたくさんの見物人が群がつている。やがて軍楽隊を先頭に交代の衛兵の行進が近ずいた群衆はワイワイ騒いでいる。まことにはや大時代的な行事で、英国の保守性の象徴である。日曜なので美術館の開館は二時から五時までとのこと、他の人は幾つかをみる予定であるが私は一ツの美術館をゆつくりみたいので行動を共にできなかつた。それでも数人は私と同行してビクトリヤ美術館に入つた、圧倒されるような大作がならんでいる。私はあかずながめて歩いた、別の室でフトみたのはルノアールの小品である。しかしその作品は私の心に浸み入つて、他の大作の画の印象は次第にうすれてしまつた。いまだにルノアールの画の美しさはハツキリとよみがえつて来る。

芸術とはまことに不思議なものである。作品の大・小ではない作家と見る人の心のかよい合う強さであろう。


クロポトキン著
大杉栄訳
青年に訴う（改訂版）
付・クロポトキン年譜
文庫版 六十二頁 定価 七〇円
発行所 日本アナキストクラブ
川崎市塚越三ノ四七二 綿引方


# アナキズム運動の多様性

大島英三郎

いまの世相は互に奪いあい、だましあい、殺しあい、一日として心やすまることのない、まるで地獄のようなありさまです。なぜ人類の社会はこのように無惨な状態を続けているのでしようか。

それは総ての人が金銭のドレイとならなければ生きてゆけないという資本主義制度と、この制度を維持し私たち民衆を搾取するために組織された権力機関のためです。白い手の少数者が私たち大衆の労働を収奪して、ぜいたくにふんぞりかえつて暮しているからです。

アナキズム（無政府主義）は力悪の根元である資本主義と国家権力を打ち倒し、自由、平等、人類愛の共産社会を実現する、真の革命思想であります。アナキスト（無政府主義者）は大衆にこれを伝道し、大衆の自覚と奮起を促すために全力を傾注するものです。

大正時代に一漁村の老婆が金もうけのために米の買しめをしたり売り惜しみをしたりする米屋に対して怒りを爆発させたのがきつかけとなつて、これが全国に波及して大暴動となり全国いたる所で略奪が行われ政府は遂に軍隊を出動させて銃剣によつてようやく鎮圧した。これが世に伝えられる米騒動である。この反逆は大衆に直接行動の威力を教え社会革命の可能性を証明する重要な意義と大衆の行動に対する自信を持たせたことはまことに貴重な経験であつた。

天与の自然の富と大衆の労働の集積で社会の富は累進巨大化した。しかし支配階級搾取の残飯的なおこぼれ物資が少しばかり余計になつたからといつて、けつして革命精神がにぶるものではありません。支配者政治屋たちの誇張する福祉国家という偽善的な仮面にだまされてはなりません。

アナキストの運動は多種多様性が尊重されます。各個人がその地位境遇により、革命の研究著作に深沈するもの、伝道のための新聞やパンフレツト等の出版配布に奔走するもの、運動資金のかくとく供与に尽力するもの、大衆のくらしを守る日常闘争に協力してアナキストが常に大衆と共にあることを身を以つて伝動するもの、肉弾となつて突げきして権力者のイキのねをとめるテロリスト、その時と所によつて、みんな貴重な意義ある行為による伝道であります。

いずれを甲とし乙とすることはできません。人類は社会組織をもつており、社会のあらゆる部面において天与のすばらしい創造力を持つております。社会組織のあらゆる制度も自らの力によつて変えることのできるのも人間の特性であります。

私たちは大衆を指導するものではなく、私たちの心の底に厳存する社会性が大衆に対して無政府共産の福音をさけばずにはいられないからです。権力者階級の罪悪と戦わずにいられなくなるからです。

## 住居変更についてのお願い

最近、全国的に住居の町名番地の変更で郵便物の未着や返送されてくるのが多いので、連絡上大変困つています。つきましては住居町名番地等変更の方は御面倒でも至急、新住居番地を明記の上、御一報下さるようお願い申上げます。

## 消息

☆杉本君再入院

同志杉本博（平二）君は都の失対労務者として働きながら組織活動に挺身していたが、五年前に職場で高血圧のために倒れて入院したが半年後にようやく退院、直後に愛妻が同病で動けなくなつて入院する始末。当時四人の子供を抱えて働きながら子供の面倒を見て来たが、病後の無理が祟つて先月はじめ再入院した。ところが妻君の方は全快の見込みがなく五年間も入院中のため留守宅は四人の子供たちでどうにか生活している現状です。われわれ同志はつねに貧窮と戦いながら社会改革のためにお互いに励まし合いながら運動を続けているが、何といつても病気には勝てず、しかも杉本君のように両親が倒れているのでは全く同情に耐えません。われわれは血盟の同志に対してはできるだけの救援の手をさしのべるべくいますが、全国の旧友知己の温い同志愛に期待致します。なお杉本君夫妻の入院先きは左記のとおりです。

○杉本博君
練馬区関町四ノ六八二
島村医院内

○杉本セキさん
豊島区池袋一ノ六〇六
長汐病院内

☆田中安君入院

同君は昨年秋以来健康を害していたが、今年の九月例会には元気な顔を見せて一安心と思つていたが、再び肩の疾患で入院することになりました。

☆岩佐七重さん元気に

この夏胃かいよう手術のため二カ月入院しました、退院後は順調に快復して元気になられた由。

☆岩佐老健在

十一月三日の文化の日に同志、広海貫一、平岡甚造の三君は千葉県茂原市在の岩佐作太郎老（本年八十七才）の傍居を見舞つた。

岩佐老は思つたよりも元気であつたが、老妻は足が不自由で寝たり起きたりの状態。

夫妻の話では、ここは辺地のためか訪れる人もまだだと、大変喜こんでいた由。何分にも老令なので、同志諸君の激励と慰問を続けて欲しい。現住所は、

千葉県長生郡長南町岩川

☆長谷川武君転居

同志、長谷川武君はこのたび横浜市から娘さんの埼玉県入間郡武蔵町黒須六六五松沢真誠君宅へ転居した。

## 八太舟三論集近刊予告

アナキストクラブでは戦前の先覚者であつた八太舟三氏の論集を出版するために目下手分けして原稿を整理中で、近くパンフレツトとして刊行する予定。

訂正

前号52号は53号の誤りでした。編集者の手落ちでしたので訂正致します。